

17. 技士の生涯教育と関東高気圧酸素治療技術研究会

小森恵子*1) 廣谷暢子*2) 松田範子*3)
千葉義夫*4) 相沢 朗*5) 高橋 洋*6)
戸崎 剛*7)

- *1) 東海大学医学部付属病院救命救急センター
- *2) 労働福祉事業団横浜労災病院臨床工学技士部
- *3) 日本医科大学第一外科高圧酸素治療室
- *4) 社会福祉法人仁生社江戸川病院
- *5) 戸田中央総合病院ME科
- *6) ㈱小池メディカル
- *7) 新潟エア・ウォーター(株)

高気圧酸素治療（以下HBO）は患者を非生理的な環境に暴露させる特殊な酸素療法であるため、施行に際しては通常の酸素療法に関する知識の他に留意すべき点が多々ある。現在HBO装置の操作担当者の大部分は臨床工学技士である。しかしHBO教育は技士養成機関だけでは甚だ不十分な上に教科書もなく、卒後医療現場に於ける関係者も少ないために、HBO操作担当技士は限られた知識と孤立した状況の中で業務に従事してきた。こうした現状を打破し安全にHBOを施行するためには、操作担当者の卒後教育、生涯教育のための勉強会設立が不可欠と考えた。

平成8年5月、北海道や九州に習って、神奈川県対象に、県内の4施設5名の技士で世話人会を設け、勉強会開催準備を始めた。①HBO操作担当者の交流、②HBOに関わる知識と技術の研鑽、③HBOの安全教育の確立、以上3点を目指して、平成9年5月から平成11年10月までに計5回の勉強会を開催したが、世話人達はその勉強会に限界を感じて、対象を関東全域に拡大することにした。

対象各都県及びメーカー担当世話人を新たに指名して世話人会を刷新し、次いで日本医科大学の恩田教授に顧問に就任して頂き、本年5月に第1回関東高気圧酸素治療技術研究会を開催した。今後もHBO操作担当者の現状等を把握しながら生涯教育の一翼を担うべく活動を継続していく予定である。

18. 高気圧酸素治療用 血圧・脈拍 計測値収集システムの有用性について

濱田倫朗*1) 小妻幸男*1) 川野洋真*1)
堀内賢二*2) 山田祥玄*3)

- *1) 済生会熊本病院臨床工学部
- *2) 同 心臓血管センター
- *3) 日本GEマーケットメディカルシステム

【はじめに】高気圧酸素治療中の患者状態を把握するための生体情報として、当院では血圧・脈拍・心電図を監視している。今回、自動血圧計の測定結果をコンピュータに取り込み、いつでもデータベースとして活用できるシステムを作成したので、その有用性について報告する。

【使用装置およびプログラム】1) PC：Dell Dimension V400c（メモリ128MB、HD 4 GB、OS Widows NT ver4.01）2) 自動血圧計：大同ほくさん社CAS高気圧治療用血圧計オシロメイト1630 3) 心電図モニタ：NECメディカルシステムズ社セントラルモニタBiomulti 1000 PN1821 4) 計測値収集プログラム：Bio Log（Microsoft Visual Basic 6.0で作成）5) アプリケーション：ファイルメーカーPro Ver3

【結果】これまで、自動血圧計で記録した結果は専用のプリンタで印刷するのみで複製などもできず、カルテ用記録のみに添付保存していた。そのため、治療記録に入力を行わない限り高圧酸素室には血圧・脈拍測定の結果が残ることはなかった。

- 1) 高圧酸素室にデータベースとしての血圧・脈拍データの保存が可能となった。
- 2) そのデータを加工することにより経時変化のグラフ作成や統計処理が可能となった。
- 3) 治療中、記録を行いながら、モニタ画面で血圧・脈拍の監視を行うことができる。
- 4) ボタン操作のみで記録の保存が行え、入力業務の省力化が可能となり、患者観察に集中できるようになった。

【結語】今後、保存したデータを分析し、疾患別に血圧・脈拍の経時的変化について検討を行い、高気圧酸素治療を行う上で有効に活用できるものと思われた。